

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
 II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
 III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
 IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
 V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都市 】

1 実践テーマ	【 II、III 】
2 実施対象者	京都市立京都工学院高等学校 第2学年240名（男子212名、女子28名）
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 (人権学習) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	車いすバスケットボールを体験することと、選手の講話を聞くことにより障がい者に対する理解を深め、共生の大切さを学び自分の生き方を考える機会とする。 また様々なことに対する偏見と誤解を払拭し、障がいのある人々が住みやすくなるために社会はどう変わらなければならないかを考える機会とする。
5 取組内容	(1) 事前学習として、車いすバスケットボールの歴史、競技概要、パラリンピックについて学習。 (2) 車いす体験 趣旨説明 講師、選手紹介 ・講師紹介 京都市こどもパトナ ふれあいの杜館長 坂野 晴男 氏 (2000年シドニー、2008年北京パラリンピック出場) ・講師による選手紹介 選手6名 チーム：京都UPS（アップス）、レイク滋賀 ・車いすバスケット用車いすの説明、車いすバスケットのルール、競技説明 生徒体験 クラス対抗車いすリレー（各クラス5名） ・坂野先生指導、アナウンスによるクラス代表生徒、教員対抗リレー 競技用車いすでの前進・ターン・後進



生徒体験 クラス対抗車いすバスケットボールのゲーム
選手による模擬演技

- 坂野先生指導、アナウンスによるクラス代表生徒、教員対抗
交流試合（各クラス代表5名+選手、1ゲーム4分）

選手との対話交流（5グループに分かれて対話）

障がい者となった経緯、バスケットを始めたきっかけ、意義
など



質疑応答

まとめ、生徒代表謝辞

HRに戻り感想文の記入
終了

6 主な成果

感想文より、以下のような感想や気づきがあった。

レースをみて、みんな難しそうだった。
それに比べて選手の人はとてもはやくて、切りかえしとかも自由に
やっていてすごいと思った。

シュートをしていたとき、立っているよりも低い位置からからのシ
ュートなのにきれいにきめていてほんとうにすごいと思った。

選手の人達が簡単に車いすを動かしていたので、簡単そうだったけ
れど生徒の人がやっているのを見ると動かすことでさえ難しいのが
伝わってきた。バスケットをやっている姿を見るととてもいきいきしてい
てとてもかっこよかった。

寒くて、何も面白くなかった。体験をした人は楽しかったかもしれないけど、見ている人の配慮がないと感じた。この授業の目的・意義が分からない。目的も分からないまま何かをしても「学」にならなかったのも、正直時間を浪費したという結果になってしまった。

見て思ったことは、やっぱりプロの人達の動きは、スムーズに動いていて、パラリンピックを出たことや目指しているだけあるなと思いました。

オリンピックはテレビでよく観るが、パラリンピックは観ていないので、やっぱり心の中で何かありましたが、今回の授業で車いすバスケの雰囲気を感じて、パラリンピックへの興味がわきました。

思っていたより軽く車いすをこぐことができちゃ楽しかったです。回転する時はなかなか思うように回転できなかったです。特に、後ろ向きに動く時の左右の力かけんが上手くできず、その場で回転してしまいました。

選手の方々がバスケットをしているところを見て、自分の体の一部のように車いすを動かしていてすごいなと思いました。あのよう車いすを動かされるようになるには、たくさん努力したのかなと思います。すごく速いスピードで走っていたので怖くないのかなと思いました。

前進することはそこまで難しくなかったが後退するのが左右のバランスが難しかった。でも後退することなんてあるのかと疑問に思った。またバスケットボールは中学生のとき体験してボールがゴールまで届かなかったことがあったのでリレーを選択したが皆いがいと楽しんでいてまた機会があればやってみたいと思った。もし自分が足が使えなくなったら車いすで色々なスポーツをしてみたいと思った。

車いすバスケットボールの体験をして、楽しかったし、バスケットボールをするのが難しかった。中学生のときにも体験をしたけれど何回体験しても楽しいと思いました。

車いすで生活する上で1人でしなければいけないことなどが多いと思うけれど移動するのも難しいことだなと感じました。最初の選手の試合を見てバスケットボールのようにドリブルやパスをして疾走感のある試合ができてすごいと思いました。体験して感じた不便さを無くして生活できるように手助けをしていきたいと思いました。

リレー枠で選手として実際に車いすに乗ってみて、車いすで日々生活している人達のすごさがひしひしと感じられました。左右のタイヤがばらばらに動くので力を均等に加えられないと真っすぐ進めないし、曲がる時も加減を間違えれば曲がりすぎたり足りなかったりしてうまく曲がりません。バスケットなんてなおさら加減が難しいと思います。普段あたり前のように歩いたり飛んだりバスケットをしたりしていたのが今回の体験ですごくめぐまれているなと思えました。自分は目がすごく悪くてメガネやコンタクトレンズがないと何も見えない人間なので、車いす生活をしている人や他の障がいがある人（よりは全然酷くないけど）の『当たり前じゃない』という気持ちにとっても共感できました。

	<p>オートバイの事故で下半身がまひしてしまっただけですが、バスケットボールというスポーツを通して人生の楽しみを見つける大切さが分かった。障害の有無にかかわらず人生を楽しむ大切さを学んだ。</p> <p>なんかすごくせつない話だと思った。今まで車いすに対しての知識はあまりなくて、バリアフリーとかいわれてもなんとも思わなかった。でも車いすに乗って生活をしている人はみんな、苦労しているので、もっとバリアフリーとか福祉制度が進んだら良いな—と思った。</p> <p>何事に対してもやろうとする意識（目的意識）を持つことができればできるというお話を聞きました。自分が勝手にできないと思い込んでいては何も始まらないので積極的に行動したいと思った。</p> <p>車いすの生活になってネガティブな気持ちになってばかりの時もあったけれど残ったものもあり、車いすバスケットには障害をもってから出会えたものだと言っておられた。自分のあたり前に感謝しなければいけないと思った。</p> <p>車いすになるのは普通すごく悲しいことだと思っていたんですが、前向きに色々なことにチャレンジしてみようと思えたり、実際に行動に移して努力したりできるのがすごいなと思って感動しました。</p> <p>ささいなきっかけで車いすバスケットを始めて、4年間努力し続けて全国に出場できるくらいの力をつけられたという話を聞いて、こんなにも前を向いて走っている人が日本や世界中にいるのだから自分も今やるべきことや目標に向けての課題を一生懸命やりたいと思いました。</p>
<p>7実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<p>事前学習において、車いすバスケットボールの歴史、競技概要、パラリンピックについて学習した。</p> <p>実際に車いすに乗ることによって操作の難しさ、不自由さ、腕への負担の大きさ等を体験させた。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>車いす体験、車いすバスケットボール体験、選手との対話交流など貴重な体験が出来た。</p> <p>しかし時間の関係で生徒全員（240名）が車いす体験が出来なかった。全員が体験できるように内容を考え、もう少し時間を確保することで全生徒に体験をさせたい。</p> <p>事前学習において、障がい者に対する理解を深め、共生の大切さを学び自分の生き方を考える。また、様々なことに対する偏見と誤解を払拭し、障がいのある人々が住みやすくなるために社会はどう変わらなければならないかを考える学習をしっかりとする必要がある。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>2年生の人権学習として、今年度と同様に車いすバスケットボールの体験学習を実施したい。</p>